

8. オランダ農業調査①(グリーンポート)



オランダは、国内5カ所に園芸生産者や研究機関、関連企業等が集まったグリーンポートと呼ばれるクラスターを形成。



グリーンポートの1つであるウエストランドにて、市長から地域農業について説明。



ウエストランドのパプリカハウスにて、作業台車に乗り、説明を受ける林大臣。



オランダでは、農業分野のIT化も進んでおり、作業者の労務管理にも技術活用。

8. オランダ農業調査②(ワーヘニンゲン大学)



大臣が視察したワーヘニンゲン大学研究センターでは、産学官連携により最先端の研究を実施。企業とのタイアップにより、生産エネルギーを60%節約するコショウラン等の栽培実証(写真:左上、右上)や、光の錯乱度合いを変化させる研究(写真:左下)、バイオマス燃料としての活用を目的とした藻類栽培の研究(写真:右下)等を行っている。

8. オランダ農業調査③(施設園芸花き)



オランダでは作業の機械化が進み、コチョウラン生産では、ハウス内の移動や出荷のための選別は機械で行われている。(写真:左上、右上)

キク生産においても、苗の生産は自動で行われ、生産された苗は各国に販売。(写真:左下、右下)

8. オランダ農業調査④(施設園芸野菜)



6軒の生産者グループが中心となり、「Tomato World」というトマトの情報交換、展示、研修を行う場を設立。種苗、資材・機材、研究、金融等約40の企業もスポンサーとして支援。



天然ガスエンジンにより、熱、電気、CO₂を利用するトリジェネレーションシステムを導入。



園芸ハウスには出荷パッキングセンターが併設され、流通コスト削減を実現。

参考1:『次世代施設園芸セミナー』の開催

開催日:平成25年10月10日(木) 於 農林水産省本省

目的: 次世代の施設園芸を展開するためには、民間企業や生産者、地方自治体等の協力体制の構築が大切であるとともに、産業界の最新技術やノウハウを農業界に活かす異業種連携を具現化することも重要なポイント。本セミナーでは、園芸先進国オランダの状況や、国内の優良事例等について紹介するとともに、農業界から産業界まで幅広い参加者から意見を聴取し、今後の施策へ反映させる場とした。



セミナーの冒頭に林農林水産大臣からあいさつ



経団連農政問題委員会共同委員長
住友化学(株)十倉社長からあいさつ



経団連、日本商工会議所会員の民間企業、
農業者団体、都道府県など約200名が参加



会場では活発な意見交換が行われた